

厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業

「周産期医療の質の向上に寄与するための、
妊産婦及び新生児の管理と診療連携体制についての研究」

分担研究課題
「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための
諸体制の開発に関する研究」

令和2年度 分担研究報告書

研究代表者 池田 智明
(三重大学医学部産科婦人科学教室 教授)

研究分担者 海野 信也
(北里大学医学部産科学 教授)

令和3(2021)年 3月

目 次

I. 分担研究報告	
「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」	1
	海野信也
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	----- 10

令和二年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

「周産期医療の質の向上に寄与するための、

妊産婦及び新生児の管理と診療連携体制についての研究」

研究代表者 池田 智明（三重大学医学部産科婦人科学教室 教授）

分担研究報告書「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」

研究分担者； 海野信也（北里大学医学部産科学 教授）

研究要旨

無痛分娩の安全性確保のために必要な方策について、先行研究の成果である「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」の実現を図るため、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会（JALA）との共同研究体制を構築し、無痛分娩の研修体制の構築、無痛分娩の有害事象の収集・分析・再発防止策の共有体制の構築、無痛分娩取扱施設の診療体制に関する情報公開システムに関する検討を行った。3年目（最終年度）の2020年度は以下の検討を行い、安全な無痛分娩提供体制の構築にむけた取り組みの具体化を進めた。①前年度末から急速に流行が拡大した新型コロナウイルス感染症のため、実開催が非常に困難となった「無痛分娩の安全な診療のための講習会」のうち可能なものについてはWEB受講を可能にするためのシステムを開発し、講習会の継続が可能な体制を整備した。②無痛分娩関連有害事象の収集と分析、情報共有を行う本格的な事業開始のためのシステム開発を行い、運用を開始した。③無痛分娩に関する情報提供サイトであるJALAサイトによる情報提供を継続するとともに、無痛分娩取扱施設の診療体制情報に関する情報を収集し、一般の方々に提供するための施設データ登録システムの稼働を進め、情報公開施設数の増加を図った。上記の研究活動を通じて、無痛分娩の安全性向上とそれに関する情報公開の体制の社会実装を実現した。

研究組織の構成

- ・研究代表者：池田智明
- ・研究分担者：海野信也・石渡 勇
- ・研究班の構成及び研究協力者（イタリック体は研究代表者及び分担者）：
 - (ア) 全体会議構成員：平川俊夫・渡辺弘司・阿真京子・後 信（・石川紀子・伊東宏晃・田中 基・橋井康二・近江禎子・黒川寿美江・池田智明・加藤里絵・石渡 勇・飯田宏樹・安達久美子・宮越 敬・海野信也・前田津紀夫・横田美幸（括弧内は、各研究グループと重複している構成員）
 - (イ) 研修体制グループ：近江禎子・石川紀子・伊東宏晃・田中 基・橋井康二・関沢明彦・山畑佳篤・松田秀雄・角倉弘行・大瀧千代・照井克生・中畑克俊・岡田尚子・牧野真太郎・永松 健
 - (ウ) 有害事象グループ：石渡 勇・黒川寿美江・池田智明・加藤里絵・飯田宏樹・奥富俊之・天野 完・長谷川潤一

(エ) 情報公開グループ：海野信也・安達久美子・宮越 敬・前田津紀夫・横田美幸・岡田恭芳・川真田樹人・新垣達也・早田英二郎

A 研究目的

- 1) **分担研究班設置の経緯**：無痛分娩に関連した有害事象が大きな社会問題となる中で、平成 29 年度厚生労働特別研究事業「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」が実施され「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」（以下、「提言」）が作成された。本「提言」及びそれに基づいて作成された自主点検表は、平成 30 年 4 月 20 日付医政局総務課長・地域医療計画課長通知「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」において、都道府県に対して分娩取り扱い施設への周知徹底を図ることとされた。そして、「提言」の実現をはかるための体制づくりを目的として、平成 30 年 11 月 13 日に本研究班「周産期医療の質の向上に寄与するための、妊産婦および新生児の管理と診療連携体制についての研究」に対して「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究（担当：海野、池田、石渡）」の実施に関する追加交付が決定し、無痛分娩分担研究班が設置されることになった。
- 2) **無痛分娩分担研究班の研究目的**：本分担研究班の目的は、安全な無痛分娩の提供体制を構築するために必要な、医療スタッフの研修プログラム開発、効果的な情報公開の方法の開発、有害事象の情報収集・分析・共有に関する仕組みの開発を行うことである。
- 3) **2020 度の分担研究班の研究目的**：その

研究目的を達成するため、2020 年度は、2019 年度の研究成果を踏まえ、以下のような方針で研究を進めることとした。

- (ア) **【JALA との連携の継続】** 前年度に引き続いて無痛分娩関係学会・団体連絡協議会（JALA）と連携して研究を進める。
- (イ) **【E ラーニング講習会の開発】** 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大のため、医療従事者が多数集合することが必要な実開催の講習会の安定的継続的開催は、2020 年度は非常に難しい状況が継続した。このため、このような状況下でも、2019 年度に本格的に開始された無痛分娩に従事する医師及び医療スタッフを対象とした「無痛分娩の安全な診療のための講習会」の開催を可能になるため、可能な講習会については、E ラーニングに移行する必要があると考えられた。そこで 2020 年度は、そのための方策を検討し、実現させるためのシステムの開発を進めることとした。
- (ウ) **【無痛分娩取扱施設の情報公開の推進】** 無痛分娩取扱施設とその診療内容に関する効果的な情報公開の方法の開発を進める：ウェブサイトを通じて提供する情報の内容の検討を行うとともに情報公開施設を増加させるための方策について検討する。

(エ) 【有害事象収集分析事業の開始】
2019年度に検討を行い、倫理審査申請を行った無痛分娩に関連した有害事象の情報収集・分析・共有事業を開始するための体制整備及びシステムの開発を行う。

B 研究方法

1) 研究体制：

(ア) わが国のこの領域に関わる専門学会・団体が幅広く関与する体制の迅速な構築のため、前年度より継続して無痛分娩関係学会・団体連絡協議会（The Japanese Association for Labor Analgesia; JALA）及びその構成団体と共同研究を行った。

(イ) 分担研究班内の研究グループとそれぞれの担当領域は以下の通りだった。

- ① 研修体制グループ：無痛分娩に従事する医師及び医療スタッフの講習会の開発と開催支援。
- ② 有害事象グループ：無痛分娩に関連した有害事象の情報収集・分析・共有体制の構築支援。
- ③ 情報公開グループ：無痛分娩取扱施設とその診療内容に関する情報公開の推進のために必要な施策に関する検討。

2) 各研究グループの 2020 年度の研究計画

(ア) 研修体制グループ：

- ① 前年度に本格開催が開始され

た「無痛分娩の安全な診療のための講習会」の4カテゴリーの講習会のうち、Eラーニングでの開催が可能な講習会と考えられるカテゴリーA、カテゴリーD講習会のEラーニング版の開発を行う。

- ② 新たに麻酔科医対象のカテゴリーB講習会をEラーニングとして開発する。

- ③ 前年度に開発した講習会管理システムにWEB講習会提供機能を追加する。

(イ) 有害事象グループ：COVID-19の感染拡大のため遅れていた倫理審査を完了させ、現場からの無痛分娩関連有害事象のレポートシステムを開発する。

(ウ) 情報公開グループ：

- ① 全国の大部分の無痛分娩取扱施設の診療体制に関する情報の公開を進める。

- ② JALA サイトを通じた社会啓発活動を進める。その一環として市民公開講座のWEB配信を行う。

C 研究成果

1) 会議の開催：無痛分娩分担研究班の全体会議をJALA総会との同時開催の形式で2回開催した。

(ア) 第6回：2020年6月19日（資料1）

(イ) 第7回：2021年2月25日（資料2）

2) 各研究グループの研究成果：

(ア) 研修体制グループ：

- ① **WEB 講習会の開発**：「無痛分娩の安全な診療のための講習会」の4つのカテゴリー講習会のうち、カテゴリーA講習会、麻酔科医対象のカテゴリーB講習会、カテゴリーD講習会のためのEラーニングコンテンツ及び受講確認試験を作成した。
- ② **WEB 講習会開始時期の決定**：第8回JALA総会の決定により、JALA主催の講習会については有料とする方針となった。WEB講習会の開催準備が、2020年度末近くになって完了したことから、WEB講習会については2020年度中に試験的に開始し、本格開始は2021年度当初よりとする方針となった。

(イ) 有害事象グループ：

- ① **倫理審査の完了**
 1. 2020年6月4日 三重大学倫理委員会 「無痛分娩関係・団体連絡協議会有害事象収集および分析事業～より安全な無痛分娩の提供体制構築のための無痛分娩取扱施設を対象とした有害事象全国アンケート調査研究～」最終承認
 2. 2020年7月1日 日本産婦人科医会倫理委員会承認

- ② **有害事象報告フォームの開発**：有害事象の迅速な報告を促すため医療従事者向けJALAサイトから直接事務局に対して報告ができる報告フォームを開発し、JALAサイトに実装した。(資料3)

(ウ) 情報公開グループ：

- ① **JALAサイトの運営**：JALA情報公開分科会と連携し、無痛分娩に関するインターネットを介した情報提供サイト、JALAサイト「医療関係者向け」(<https://jalasite.org/doc/>)及びJALAサイト「一般の方向け」(<https://jalasite.org/>)の運営を担当し、運営上必要なシステム改修を行った。
- ② **JALAサイトを介した情報発信**：一般の方及び医療従事者を対象として、情報提供・啓発を目的とした記事をアップした。

1. 医療従事者向け

(ア) 【2020年7月5日更新】令和元年度無痛分娩分担研究班報告書

(イ) 【2020年7月13日更新】2020年前半のJALA活動報告

(ウ) 【2021年2月13日更新】無痛分娩施設情報に「麻酔科標榜医資格を有する産婦人科医数」に関する

情報が追加されました。

2. 一般向け

(ア) 【2020年7月13日更新】2020年前半の無痛分娩関係学会・団体連絡協議会(JALA)の活動についてのご報告

(イ) 【2020年9月12日更新】第2回JALA市民公開講座【WEB配信】お産に関わる医療について、今知っておきたいこと」をアップした。

③ 無痛分娩取扱施設情報公開の推進：JALA 情報公開分科会と連携し、JALA 無痛分娩診療体制情報公開事業の推進に協力し、「診療データ登録システム」を通じて行われる公開申請に対し、その申請内容及び施設サイトにおける情報公開の内容の確認、それにもとづく JALA サイトを通じた施設情報公開の可否に関する判定業務を行った。その結果、事業への参画施設数は以下のように増加した。

1. 参画同意施設数 355
(第7回総会時) → 361
(2020年6月9日) →
365(2021年2月19日)
に増加：JALA サイトを介しての参画希望施設に

対し 順次, ID, Password 送付を行った。

2. 公開依頼施設 153 (2020年4月23日) → 155 (2020年6月9日) → 176 (2021年1月30日)
3. 公開施設 106 (2020年4月23日) → 111 (2020年6月9日) → 132 (2021年2月19日)

④ 公開保留施設・未公開依頼施設への公開支援活動：公開保留施設に対して順次、照会のメールを送り、公開支援を進めた。

⑤ 産婦人科と麻酔科の勤務医師数の項に「麻酔科標榜医資格を有する産婦人科医師数」欄を2021年2月8日より追加：公開施設の内、麻酔科標榜医資格を有する産婦人科医が勤務していた16施設に希望があれば施設データの更新を行うようにメールで連絡した。
(2021年2月19日現在5施設が対応済み)

⑥ 講習会管理システムの改修：前年度に開発した講習会管理システムにWEB講習会の設定と提供機能を追加した。(資料4)

3) 分担研究班としての研究成果

(ア) 無痛分娩関係学会・団体連絡協議

会 (JALA) との共同研究の推進 :

- ① JALA 総会・分科会の会議は分担研究班の会議と共催の形で開催した。
- ② 会議・講習会・検討会等の開催経費及び情報公開システム構築に関連した経費は、その研究実態に応じて JALA と分担研究班で按分して負担した。
- ③ 本研究で開発された無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の管理運営は原則として JALA が担当し、安定的運営の基盤形成を進めた。

D 考察

- 1) **研修体制グループ** : 「無痛分娩の安全な診療のための講習会」の 4 カテゴリーについて、それぞれの講習会を安定して開催し、全国の受講希望者が受講可能な体制を整備することを目的に研究を行った。2020 年度は COVID-19 の感染拡大のため大多数の学会が実開催を断念し、WEB 開催となった。このため 2019 年度は関連学会等の開催時に開催していた JALA 講習会のこれまで通りの開催は事実上不可能となった。この状況の継続期間の予測がつかないこと、同様の事態は他の感染症や自然災害によっても発生しうることを考慮し、全国の医療従事者が安定的に受講可能な体制の整備が必要と考えられた。
- 2) JALA 講習会の中で産婦人科医を主たる対象とするカテゴリー B 講習会及びカテゴリー C 講習会は、シミュレーション演習が重要な構成要素となっており、

インターネット等を介した WEB 開催だけでは目的とする研修成果を挙げるのが難しいと考えられた。

- 3) その一方、座学が中心のカテゴリー A 講習会、2020 年度に開発予定だった麻酔科医対象のカテゴリー B 講習会、助産師・看護師対象のカテゴリー D 講習会は、E ラーニングへの移行が可能と考えられた。
- 4) 今年度の研究によりこれらの 3 種の講習会についてコンテンツが作成され、それをインターネット上で提供するシステムの開発も終了することができた。
- 5) その結果、2021 年度以降、2019 年度に受講申込を行いながら COVID-19 感染拡大のため受講できなかった方々を含め、安定して受講機会を JALA が提供できる体制を整備することが可能になっており、無痛分娩の安全性向上のための研修機会の社会実装という本研究の目的のひとつは達成することができたと考えられる。
- 6) **有害事象グループ** : JALA の「無痛分娩有害事象収集分析事業」は、2020 年度倫理審査が完了した。本研究により報告フォームの実装も終了しており、今後、2019 年以降の無痛分娩関連有害事象の収集が開始される。
- 7) **情報公開グループ** :
(ア) 2020 年度、COVID-19 感染拡大が産科診療現場に重大な影響を与えた。特に年度前半において、JALA サイトへの施設情報公開申請数が著しく減少した。

(イ) しかし 2021 年に入り、既に施設情報を公開している施設からの情報更新申請が増加し、無痛分娩に関する情報公開推進という考え方は、多くの施設で共有されていると考えられた。

- 8) **分担研究班全体**：2020 年度本分担研究班は、平成 29 年度厚生労働特別研究事業「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」の「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」の中で指摘された、研修体制、情報公開体制、有害事象再発防止体制を構築するための基盤の確立のため、JALA とともに活動を継続した。今後、JALA の活動の活発化と安定化を推進し、自立した組織としていくためには、e-learning 方式の導入が可能な講習会等についてはオンラインの研修、講習等を積極的に活用し、受講者負担を軽減するとともに外的要因による研修機会の制約を最小限にする方策の検討を進める必要があると考えられる。

E 結論

無痛分娩の安全性確保のために必要な方策について、2020 年度は、研究の最終年度として、先行研究の成果である「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」の実現を図るため、無痛分娩関係学会・団体連絡協議会 (JALA) との共同研究体制をさらに推進し、本研究の成果が本研究終了後もわが国の社会に定着し、無痛分娩の安全性向上の流れが持続することを目指して研究を行った。その結果、医療従事者向け JALA サイトを通じた無痛分娩取扱施設との連携

体制の構築、一般向け JALA サイトを通じた無痛分娩関連情報及び無痛分娩取扱施設情報の提供体制の構築、WEB 講習会としての「無痛分娩の安全な診療のための講習会」提供体制の構築を達成し、今後その運営を JALA に引き継ぐことができた。また、無痛分娩の有害事象の収集・分析・再発防止策の共有体制についても、その基本的枠組と運営上必要な情報共有システムを構築した。

COVID-19 感染の拡大という想定外の外的要因により 2019 年度末以降、特に講習会活動において軌道修正を余儀なくされたが、このような事態となる以前から無痛分娩の安全性向上のための活動を持続的に進めて行くためには WEB 講習会の開発が必要という認識は、研究協力者及び JALA 構成団体の中で共有されており、最終年度にそのための体制構築が完了したことは、本研究の目的を達成する上ではより望ましい結果をもたらしたとも考えられる。今後は JALA 及びその構成団体によって、本研究の成果である無痛分娩の安全性向上のための体制全体がさらに発展していくことが期待される。

F.健康危険情報：なし

G.研究発表

1. 論文発表：

- (1) Ando H, Makino S, Takeda J, Maruyama Y, Nojiri S, Sumikura H, Itakura A. Comparison of the labor curves with and without combined spinal-epidural analgesia in nulliparous women- a retrospective study. BMC Pregnancy Childbirth. 2020 Aug

- 15;20(1):467. doi: 10.1186/s12884-020-03161-x.
- (2) 細川幸希, 加藤里絵, 黒岩政之, 小池朋孝, 森安恵実, 奥富俊之, 新井正康 産科病棟における Rapid Response System 起動基準に関する後方視的検討 日集中医誌 2020;27:11-8
- (3) 加藤里絵 妊産婦の蘇生法 In: 関沢明彦, 長谷川潤一(編集)日本の妊産婦を救うために 東京医学社 東京 2020;122-9
- (4) 奥富俊之 周産期医療に麻酔科医が積極的にかかわれるような環境整備 - 日本の妊産婦を救うために 2020 (企画:石渡勇、池田智明; 編集:関沢明彦、長谷川潤一)システム編、P169-174、東京医学社、東京、2020年4月
- (5) 加藤里絵 (編集)産科麻酔 All in One 2020 文光堂 東京
- (6) 海野信也 無痛分娩事故を受けた無痛分娩の安全性向上のための対応-JALA: 発足に至るまでの経過とその活動内容- 産科麻酔 All in One (麻酔科プラクティス 1) P119-121, 2020. 文光堂
- (7) 海野信也 JALA「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会】活動報告 (2019年度) 分娩と麻酔 102; 38-46, 2020.
- (8) 近江禎子 JALA 設立と無痛分娩実施のための研修の必要性 日本産科婦人科学会雑誌第 72(12):1754-1758, 2020
- (9) 近江禎子 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会(JALA)の進捗状況報告-研修体制分科会を中心に- 麻酔 69(増刊): S66-80, 2020 近江禎子 準備すべき薬剤・器材 第一章 総論 基本手技篇/治療対応 『産科救急マニュアル』中山書店 p2-6、2021年3月発行予定
- 2. 学会発表:**
1. 石渡 勇 妊産婦死亡症例登録事業 10年の歩み、無痛分娩関係学会・団体連絡協議 JALA ; 安全な無痛分娩の提供体制づくり 第72回日本産科婦人科学会学術講演会 (WEB 開催) 2020.4.26
2. 近江禎子 JALA 設立と無痛分娩実施のための研修の必要性 第72回日本産科婦人科学会学術講演会「生涯研修プログラム」無痛分娩における安全管理体制の構築のために WEB 開催 2020.4.23-28
3. 近江禎子 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会(JALA)の進捗状況報告-研修体制分科会を中心に- 第67回日本麻酔科学会学術集会 指名演題 WEB 開催 2020.7.1-8.31
4. 海野信也 わが国の無痛分娩のあり方 -無痛分娩関係学会・団体連絡協議会の取組-日本区域麻酔学会第7回学術集会 特別講演2 WEB 開催 2020.8.9-8.22
5. 大瀧千代 無痛分娩と JALA (無痛分娩関係学会・団体連絡協議会)について 日本助産師研修会 WEB 開催 2020.10.20-2020.10.31
6. 海野信也 無痛分娩の安全性確保に向

けた取組－無痛分娩関係学会・団体連絡協議会の活動から－ 第56回日本周産期・新生児医学会学術集会 教育講演3 WEB開催 2020.11.28-12.11

7. 海野信也 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会（JALA）の活動状況－無痛

分娩の安全性確保のために－ 第1回日本産科麻酔学会 WEBセミナー
WEB開催 2020.12.14-2021.1.11

H. 知的財産権の出願・登録状況：なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
加藤里絵	妊産婦の蘇生法	関沢明彦, 長谷川潤一	日本の妊産婦を救うために	東京医学社	東京	2020	122-129
奥富俊之	周産期医療に麻酔科医が積極的にかわられるような環境整備	関沢明彦, 長谷川潤一	日本の妊産婦を救うために	東京医学社	東京	2020	169-174
海野信也	無痛分娩事故を受けた無痛分娩の安全性向上のための対応—JALA: 発足に至るまでの経過とその活動内容—	加藤 里絵	産科麻酔All in One (麻酔科プラクティス1)	文光堂	東京	2020	119-121
近江禎子	準備すべき薬剤・器材 第一章 総論 基本手技篇/治療対応		『産科救急マニュアル』	中山書店	東京	2021	2-6

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ando H, Makino S, Takeda J, Maruyama Y, Nojiri S, Sumikura H, Itakura A.	Comparison of the labor curves with and without combined spinal-epidural analgesia in nulliparous women- a retrospective study.	BMC Pregnancy Childbirth.	20(1)	467. doi: 10.1186/s12884-020-03161-x	2020 Aug 15;
細川幸希, 加藤里絵, 黒岩政之, 小池朋孝, 森安恵実, 奥富俊之, 新井正康	産科病棟におけるRapid Response System起動基準に関する後方視的検討	日集中医誌	27	11-18	2020
海野信也	JALA「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」活動報告(2019年度)	分娩と麻酔	102	38-46	2020
近江禎子	JALA 設立と無痛分娩実施のための研修の必要性	日本産科婦人科学会雑誌	72(12)	1754-1758	2020
近江禎子	無痛分娩関係学会・団体連絡協議会(JALA)の進捗状況報告-研修体制分科会を中心に-	麻酔	69(増刊)	S66-80	,2020

2020 年 6 月 22 日

「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」

第 8 回 (WEB) 総会 議事概要

「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」

総会議長 海野信也

1. 開催日時：2020 年 6 月 19 日 18 時から 20 時 40 分

2. 開催方法：WEB (ZOOM) 会議

3. 会議参加者

(ア) 総会委員：

- 日本医師会：平川俊夫
- 日本産科婦人科学会：宮越 敬・伊東宏晃
- 日本産科麻酔学会：海野信也・田中 基・照井克生 (加藤里絵委員代理)
- 日本産婦人科医会：石渡 勇・前田津紀夫
- 日本麻酔科学会：廣田和美・横田美幸・近江禎子
- 一般の立場：阿真京子
- 医療安全の立場：後 信

(イ) 監事：

- 飯田宏樹
- 板倉敦夫

(ウ) 陪席者：

- 後援団体：日本看護協会：安達久美子・石川紀子
- 厚生労働省医政局地域医療計画課救急周産期医療等対策室：田村 誠
- 日本産婦人科医会事務局：中山淳子・山内 久
- 池田班事務局担当：田中博明

4. 会議欠席者：

- 池田智明・加藤里絵・橋井康二・黒川寿美江

5. 議事概要

1. 海野信也が議長となって議事進行を行った。

2. 本 WEB 会議の位置づけについての確認

(ア) 【協議：全体】無痛分娩分担研究会との合同開催に関する確認：
無痛分娩関係学会・団体連絡協議会第 8 回総会を無痛分娩分担研究会
研究会第 6 回分班会議と同時に開催することの承認について→特に
異議なく承認された。

(イ) 【協議：全体】第 7 回総会投票結果の確認 (資料 1) について→内容

を確認し、承認された。改正された要綱及び運営細則が示された。

- (ウ) 【協議：全体】第 7 回総会の議事録は事務局及び議長が作成することの承認について→宮越委員及び事務局・議長が作成することについて承認された。

3. 報告事項

- (ア) 【報告：研究班】2020 年度の研究費の交付決定について（資料 2）
→海野議長より報告された。

- (イ) 【報告：情報公開】情報公開分科会開催報告→海野議長より報告された

- ① 2019 年度 第 1 回（通信）情報公開分科会：2020 年 3 月 17 日から 3 月 26 日にメール会議として開催し、以下の決定を行った。
 1. 海野信也を情報公開分科会の暫定責任者とする
 2. 2019 年度第 1 回情報公開分科会を、メール会議として開催すること
 3. 次回以降の情報公開分科会を、Zoom (<https://zoom.us/>) を用いた、テレビ会議として開催すること
 4. 中止となった第 2 回市民公開講座の代替の社会啓発活動として、市民公開講座第 1 部の内容を、JALA サイトから動画配信すること
- ② 2020 年度第 1 回（通信：テレビ会議）情報公開分科会：2020 年 4 月 6 日 17 時より 18 時 40 分 に開催し、以下の決定を行った。
 1. 情報公開分科会責任者として、海野信也が承認された。
 2. JALA 無痛分娩取扱施設における麻酔科標榜医資格を有する産婦人科医師数の表示方法について：JALA サイトでの施設情報の公開において、JALA 無痛分娩取扱施設における産婦人科医師数の表示に「麻酔科標榜医資格を有する医師数の内数」を加えることについて、検討の結果、麻酔科標榜医は更新制度がない等の課題もあるが、厚労省の資格であり、標榜医というものがどういうものであるかという解説記事を JALA サイトに掲載した上で情報提供として掲載するのが妥当ではないか、という結論になった。その点を含め、総会に提案する方針となった。
 3. (JALA の事務局業務の効率化、講習会受講歴管理及び受

講料の徴収システム導入のため) 講習会管理・受講管理システムを導入することについて、総会に提案することが承認された。

4. 課金方法として、銀行振込及びクレジットカード決済とし、クレジットカード決済会社として **Stripe** 社を採用することについて、総会に提案することが承認された。
5. **JALA** サイトにおける社会啓発活動について、2020 年度にも市民公開講座を企画すること、実開催とネット開催の双方を検討していくこととなった。**ZOOM** 等を用いた一般の方が気軽に参加できる企画を検討していく方針となった。

(ウ) 【報告：情報】 **JALA** 「情報公開に積極的に取り組んでいる無痛分娩取扱施設」情報公開事業への参画状況→海野議長より報告された

- ① 参画同意施設数 355 (第 7 回総会時) →361 (2020 年 6 月 9 日) に増加：**JALA** サイトを介しての参画希望施設に対し順次、ID、Password 送付を行った。
- ② 公開依頼施設 153 (2020 年 4 月 23 日) →155 (2020 年 6 月 9 日)
- ③ 公開施設 106 (2020 年 4 月 23 日) →111 (2020 年 6 月 9 日)

(エ) 【報告：有害事象】倫理審査について (資料 3-1、3-2、3-3) →石渡委員より報告された。倫理審査申請書内容及び共同研究者について照井委員代理より意見があり、有害事象分科会で検討することになった。

- ① 2020 年 6 月 4 日 三重大学病院の倫理委員会において「無痛分娩関係・団体連絡協議会有害事象収集および分析事業～より安全な無痛分娩の提供体制構築のための無痛分娩取扱施設を対象とした有害事象全国アンケート調査研究～」が承認された。
- ② 日本産婦人科医会倫理委員会にて倫理審査が承認され次第、有害事象収集分析事業を開始する予定である。

4. 協議事項

(ア) 【協議：研修・情報・分担研究班】 **JALA** 講習会への e-learning の導入と、**JALA** 主催講習会 (カテゴリーA 講習会・麻酔科医向けカテゴリーB 講習会・カテゴリーD 講習会) の受講料の有料化について

(資料 4-1)

① 2019 年度分担研究班報告書「JALA 講習会管理・受講管理システムの開発」(資料 4-2、4-3)

② JALA 講習会への e-learning の導入について(資料 4-4, 4-5, 4-6)

→海野議長及び近江委員より説明があり、協議の結果、以下のように決定された。

1. JALA 講習会で有料化を実施する。
2. 有料化される講習会の種類は、カテゴリーA、麻酔科医対象のカテゴリーB、カテゴリーD の各講習会とする。
3. 今後は、講習会管理・受講管理システムを用いて管理する。
4. 課金方式を銀行振り込み及びクレジットカード決済とする。クレジットカード決済会社として Stripe 社を採用する。
5. JALA 講習会に e-learning の導入を行う。
6. e-learning の導入のために必要なシステム改修を無痛分娩分担研究班で検討し、実施する。
7. 各講習会の開催のあり方：JALA としては e-learning で受講可能な講習会は e-learning 主体とするが、学会開催時やカテゴリーB 講習会の開催時等に併催する場合は、実講習会の開催も行う。
8. 受講料の設定について：e-learning でのカテゴリーA 講習会とカテゴリーD 講習会については、受講料は 3000 円とする。実講習会開催の場合は、学会主催者等と協議して決定する。

(イ) 【協議：全体】2019 年度決算について (資料 5-1、5-2)

① 2019 年度の JALA 決算について→事務局が資料に基づいて説明を行った。

② 2019 年度の JALA 決算に関する監査報告について→飯田監事より資料に基づいて報告があり、承認された。

(ウ) 【協議：全体】2020 年度予算案について (資料 6) →事務局及び海野議長より説明があり、協議の結果承認された。

(エ) 【協議：情報】JALA 無痛分娩取扱施設における麻酔科標榜医資格を有する産婦人科医師数の表示方法について (資料 7)

① JALA サイトでの施設情報の公開において、JALA 無痛分娩取扱施設における産婦人科医師数の表示に「麻酔科標榜医資格を有する医師数の内数」を加えることについて→海野議長より説明があり、「標榜医というものがどういうものであるかという解説記事を JALA サイトに掲載した上で情報提供として掲載する」

ことが承認された。JALA サイトの記事は、麻酔科の方で検討し、作成してもらうことになった。

(オ) 【協議：研修体制】2020 年度の JALA 主催講習会について（資料 8）

→近江委員より資料に基づいて説明され、協議が行われ、以下のよう
に決定した。

- ① 麻酔科専門医が無痛分娩に関わりやすくすることを目的として、
JALA 講習会受講要件を以下のように変更する。
 1. 麻酔科専門医のカテゴリーC（蘇生法講習会）講習については、相当するコースの受講歴があれば可とする。（麻酔科標準医については、これまで通り「定期的受講が必要」とする。
 2. 麻酔科専門医を対象とするカテゴリーB 講習会を開発する。
（座学中心とし、e-learning 導入も検討する。）

(カ) 【協議：全体】JALA の 2020 年度の課題と対応方針について（資料

9）→海野議長より説明があり、協議が行われた。

- ① 無痛分娩研修プログラムについては、麻酔科で検討を行うこと
になった。
- ② 有害事象収集分析事業については、倫理委員会提出資料の修正
を行うこと、事例収集にあたってよびかける無痛分娩取扱施設
の範囲及び呼びかけの方法を検討する必要があることが指摘され、有害事象分科会で検討することになった。
- ③ 診療体制情報公開事業については、JALA サイトを通じた社会
啓発を進める必要があることが指摘され、その充実の方法を検
討するための WG を作る必要性が指摘された。情報公開分科会
で検討することとなった。
- ④ JALA の組織の安定化の方策については、今年度の講習会有料
化がもたらす効果を見極めたうえで、さらに検討を続けること
になった。

5. その他

- ◆ 本総会は、令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「周産期医療の質の向上に寄与するための、妊産婦及び新生児の管理と診療連携体制についての研究（30171401）（池田班）」分担研究班「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」の第 5 回分班会議との同時開催となる予定です。

資料 1

「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」

総会議長 海野信也

事務局 公益社団法人日本産婦人科医会事務局（中山淳子）

162-0844 新宿区市谷八幡町 14 市ヶ谷中央ビル 4 階 電話 03-3269-4739 FAX 03-3269-4730

2021 年 2 月 26 日

「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」

第 9 回 (WEB) 総会 議事概要

「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」

総会議長 海野信也

1. 開催日時：2021 年 2 月 25 日 18 時より 19 時 45 分
2. 開催方法：WEB (ZOOM) 会議

3. 会議参加者

(ア) 総会委員：

- 日本医師会：渡辺弘司
- 日本産科婦人科学会：池田智明・伊東宏晃・宮越 敬
- 日本産科麻酔学会：海野信也・加藤里絵・田中 基 (欠席)
- 日本産婦人科医会：石渡 勇・前田津紀夫・橋井康二
- 日本麻酔科学会：近江禎子・廣田和美・横田美幸 (欠席)
- 一般の立場：阿真京子
- 医療安全の立場：後 信

(イ) 監事：

- 飯田宏樹
- 板倉敦夫 (欠席)

(ウ) 陪席者：

- 後援団体：日本看護協会：安達久美子・石川紀子・黒川寿美江 (欠席)
- 厚生労働省医政局地域医療計画課救急周産期医療等対策室：木下紗林子・田村 誠・
樫村智子
- 日本産婦人科医会事務局：山元 栄・中山淳子
- 池田班事務局担当：田中博明

4. 議事次第

1. 海野信也が司会となり議事を進行した。
2. はじめに、総会委員 15 名中 11 名が出席し、総会として成立していることを確認した。総会議長を海野信也が担当することについて諮り、総会として承認を得た。
3. 本 WEB 会議の位置づけについての確認
(ア) 【協議：全体】無痛分娩分担研究会議との合同開催に関する確認：無痛分娩関係学会・団体連絡協議会第 9 回総会を無痛分娩分担研究会議第 7 回分班会議と同時に開催することの承認について→特に反対なく承認さ

れた。

- (イ) 【協議：全体】第 9 回総会の議事録は事務局及び議長が作成することの承認について→特に反対なく、議事録案の作成には宮越委員にご尽力いただくことをあわせて承認された。

4. 前回議事録の確認（資料 1）：資料に基づいて概要を確認し、指摘事項があれば事務局に連絡することとした。その場では特に指摘事項はなかった。

5. 報告事項

- (ア) 【報告：情報公開】情報公開分科会活動報告（資料 2）：資料に基づいて報告された。無痛分娩取扱施設情報公開事業の最新の参画施設は 365 施設、公開依頼施設は 177 施設、公開施設は 133 施設であることが報告された。また、新たに設けられた麻酔科標榜医資格を有する産婦人科医師数の項目への対応施設は 6 施設であることが報告された。

- (イ) 【報告：研修体制】研修体制分科会活動報告（資料 3）：資料に基づいて報告された。有料の WEB 講習会としての A,D 講習会を、2021 年度から本格的に開始することを確認した。あわせて麻酔科医対象のカテゴリー B 講習会の受講料についての協議が行われ、A、D 講習会にあわせて 3000 円で開始することが提案され、承認された。

- (ウ) 【報告：有害事象】有害事象分科会活動報告（資料 4-1, 4-2）：資料に基づいて報告された。2019 年以降に発生した有害事象の報告を早期に開始することが確認された。今後は日本産婦人科医会安全委員会及び日本麻酔科学会等を通じた本事業に関する広報活動が重要であることが指摘された。

- (エ) 【報告：研究班】2020 年度の分担研究班の活動報告（資料 5-1）：資料に基づいて分担研究班の活動内容が報告された。

① JALA 講習会管理・受講管理・クレジットカード決済・E-learning システムの開発（資料 5-2）：システムの概要が説明された。

② 有害事象報告システムの開発（資料 4-1 参照）

③ 施設データ登録システムの改修

④ 2020 年 10 月 30 日：総会委員へのお詫びとお願い（資料 5-3）

橋井委員より中断していた JCIMELS のカテゴリー B—講習会（硬膜外急変対応コース）が 3 月 6 日広島、3 月 7 日福岡で開催される予

定になっており、今後徐々に再開されるとの情報提供があった。

(オ) 【報告：医療従事者向け啓発活動】(資料 6)：資料に基づいて報告された。

6. 協議事項

(ア) 【協議：全体】2021 年の JALA 事務局の体制について：2021 年度の JALA 事務局を日本産婦人科医会事務局にお願いする件について、特に異議なく承認された。

(イ) 【協議：分担研究班】

① 2020 年度末における JALA サイトの無痛分娩関係学会・団体連絡協議会 (JALA) への譲渡について (資料 7-1)：分担研究班の終了に伴い、2021 年度以降 JALA サイトの所有及び運営は JALA が担当することが資料に基づいて提案され、特に異議なく承認された。

② JALA サイトの JALA への譲渡に伴う、2021 年度以降の運営体制の変更について (資料 7-2)：2021 年度の JALA サイトの運営事務局については、JALA が北里大学医学部産婦人科と共同研究を行うことで体制を維持することが資料に基づいて提案され、特に異議なく承認された。2022 年度以降の体制については今後協議が必要であることが指摘された。

(ウ) 【協議：全体】2020 年度決算について (資料 8)：資料に基づいて説明された。2020 年度は、年度末になってから講習会管理システムの本格稼働準備等で事務局業務が増えることが予測され、提示案よりも収入支出ともに多くなることが想定されていること、最終決算の提示はは次回総会になる見通しであることが報告された。

(エ) 【協議：全体】2021 年度事業計画案及び予算案について (資料 9-1, 9-2, 9-3)

① 資料 9-1 に基づいて 2021 年度事業計画案が説明された。講習会収入が不確定であることから、JALA の安定的運営のためにより安定した収入源を確保することの必要性が指摘され、施設会員制の導入、賛助会員制度の導入、寄付の募集等の検討の必要性が指摘された。

② これらの案については 2021 年度にさらに検討することになった。

③ 2021 年度は、予算案上当初、運転資金が枯渇した状態で開始するこ

とになり、運営が滞りことが懸念されるため、協議の結果、構成団体（日本産科婦人科学会、日本産科麻酔学会、日本産婦人科医会、日本麻酔科学会）に対して、講習会収入が確保できた段階で返金することを含め、運転資金として各 10 万円の負担金をお願いすることに決定した。

- ④ JALA の運営のためには、1 年で講習会受講者が 500 名程度必要であり、講習会受講を促す必要があることが指摘された。

(オ) 【協議：全体】 SOAP ジョイントシンポジウムへの参画について（資料 10-1, 10-2）

- ① 米国 SOAP と日本産科麻酔学会、日本周産期麻酔科学会が企画している 2021 年 5 月に開催予定の SOAP ジョイントシンポジウムへの JALA の共催者としての参画の可否及び海野の JALA からの演者として参加の可否について、資料に基づく説明の後、協議が行われた。
- ② 協議の結果、JALA が共催者として参画すること、海野が JALA からの演者として講演を行うことについて、総会として承認された。

7. その他

- ① 一般の立場から総会委員となっていた阿真委員より、後任者への引き継ぎの希望が表明された。協議の結果、JALA の適切な運営のため一般の立場からの委員の存在は重要であることが確認され、阿真委員より後任の推薦をいただき、後任の委員となっていくことについて、総会として承認された。
- ② 議長より、次回の総会は、WEB 講習会本格稼働後、6 月頃を目処に開催予定である旨の発言があった。

- ◆ 本総会は、令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「周産期医療の質の向上に寄与するための、妊産婦及び新生児の管理と診療連携体制についての研究（30171401）（池田班）」分担研究班「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」の第 7 回分班会議との同時開催された。

「無痛分娩関係学会・団体連絡協議会」

総会議長 海野信也

事務局 公益社団法人日本産婦人科医会事務局（中山淳子）

162-0844 新宿区市谷八幡町 14 市ヶ谷中央ビル 4 階 電話 03-3269-4739 FAX 03-3269-4730

[ホーム](#)[無痛分娩に関する情報](#)[事業概要](#)[施設登録・検索](#)[講習会](#)[医療安全に関する情報](#)[研究班からの情報](#)

有害事象報告フォーム

下記のフォームに記入し、画面最下部の送信ボタンを押下ください。 *印は必須入力フォームです。必ず記入して下さい。

報告者の連絡先

報告者氏名*

例) 山田花子

報告者の所属診療科*

例) 産婦人科

報告者メールアドレス*

例) yamada@abc.co.jp

施設の属性

無痛分娩施設 名称*

例) 山田クリニック

無痛分娩施設 郵便番号*

例) 100-1234

無痛分娩施設 住所*

例) 東京都中央区銀座111-222

母体の属性

事例発生年月 (yyyymmdd) *

妊産婦の姓名イニシャル文字 (半角英字) *

姓

名

妊産婦の年齢*

歳

無痛分娩症例での発生事象 (無痛分娩との因果関係は問わない) *

1. 麻酔中の事象 (複数選択可)

- 心停止
- 心室細動
- 重篤な不整脈
- 心電図ST低下
- 心電図ST上昇
- 高度徐脈 (<40/分)
- 高度頻脈 (>140/分)
- 高度低血圧 (収縮期血圧 <60mmHg)
- 呼吸停止
- 呼吸数低下 (<10/分)
- 呼吸数増加 (>25/分)
- SpO2 <90%
- 意識消失
- 痙攣
- 興奮・不穏
- 意識レベル低下
- 耳鳴り
- 口唇のしびれ感

2. 母体予後に関する事象

- 母体死亡
- 母体低酸素脳症
- 母体神経障害の残存

3. 産後明らかになった母体事象 (複数選択可)

- 硬膜外血腫
- 末梢神経障害
- 麻酔終了後72時間に残存する下肢麻痺
- 麻酔終了後72時間に残存する下肢・臀部しびれ感
- 麻酔終了後72時間に残存する排尿/便障害

4. 児の事象

死産 児死亡 児の後遺障害



5. その他の事象

報告すべきと判断された有害事象をお書きください

送信

JALA運営事務局へのお問合せ

こちらをクリック

[診療体制情報公開事業](#)

[研修体制整備推進事業](#)

[有害事象収集分析事業](#)

「周産期医療の質の向上に寄与するための、妊産婦及び新生児の管理と診療連携体制についての研究」 分担研究課題「無痛分娩の安全な提供体制の構築のための諸体制の開発に関する研究」(H30-医療-一般-014) 研究代表者：池田 智明(三重大学教授) 研究分担者：海野 信也(北里大学教授) 情報公開グループ

c

JALA 講習会管理・受講管理システム及びWEB講習会作成システムの開発

- 1) JALA の講習会管理のために必要な機能に関する検討：2019年度の検討の結果、以下の機能が必要と考えられた。

JALA講習会管理・受講管理システムが備えるべき機能

- 講習会管理システム(事務局専用)
 - 講習会の設定
 - 受講受付
 - 受講料支払いシステム・クレジットカード決済と銀行振込に対応
 - 講習会資料のダウンロード
 - 受講後アンケートの設定・受付
 - 受講修了証の発行
 - 受講履歴管理
- 受講管理システム(受講者専用)
 - 申込履歴管理
 - 受講履歴管理
 - 施設データ登録システムとの連携設定機能
 - パスワード管理
- 2019年度は黒字の部分の開発を行う。
- 赤字の部分は今後開発予定

- 2) 2019年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療従事者が多数集合することを前提とする講習会の開催は短期的には難しいこと、感染拡大が収まっても全国の無痛分娩に従事する医師、医療スタッフが安定して確実に受講できる体制とするには実講習会だけでは安定性に欠けることを考慮し、Eラーニングによっても受講効果が確保可能な講習会については、実講習会以外にWEB講習会を提供する必要があるという結論になった。このため2020年度は、これまで開発してきたシステムにWEB講習会のコンテンツ作成及び提供機能を追加する方針となった。

- 3) JALA 講習会管理システムの追加の開発

(ア) 講習会一覧画面：JALA が開催する講習会を対面型講習会とWEB講習会に分けて設定可能とすることとし、これまでの講習会一覧画面を対面型講習会一覧画面に改称し、新たにWEB講習会一覧画面を開発した。講習会一覧画面は開催予定の講習会を一覧して管理することを目的として開発した。

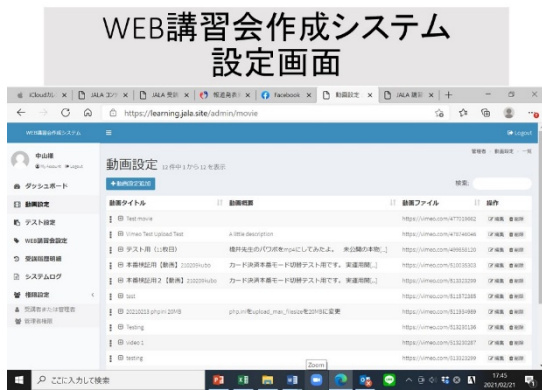
講習会管理システム 対面型講習会一覧画面

ID	講習会名	カテゴリ	開催期間	申込受付	定員	開始/申込受付	操作
1	東北エリア無痛分娩カンファレンスA	カンファレンス	2019-12-25 ~ 2020-12-31	2019-11-25 ~ 2020-12-24	10,000	2020-12-05 20:53:49	申込済
2	東北エリア無痛分娩カンファレンスB	カンファレンス	2020-01-15 ~ 2020-01-31	2020-01-01 ~ 2020-01-07	50,000	2020-12-05 20:47:12	申込済
3	東北エリア無痛分娩カンファレンスC	カンファレンス	2020-02-02	2020-01-01 ~ 2020-01-31	3,000	2020-12-05 20:47:24	申込済
9	東北エリア無痛分娩カンファレンスD	カンファレンス	2020-11-30 ~ 2020-12-02	2020-11-01 ~ 2021-11-23	0	2020-12-06 10:52:40	申込済
11	東北エリア無痛分娩カンファレンスE	カンファレンス	2021-01-14 ~ 2020-12-24	2021-01-28 ~ 2021-02-05	5,000	2020-12-17 17:06:33	申込済
14	妊婦、11月胎動不安講習会	カンファレンス	2021-03-16	2021-01-13 ~ 2021-03-15	3,000	2021-01-13 11:25:12	申込済

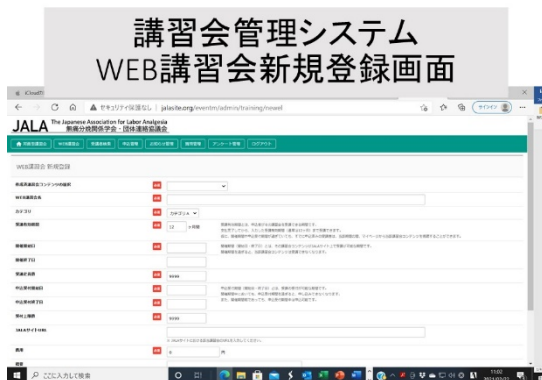
講習会管理システム WEB講習会一覧画面

ID	講習会名	カテゴリ	開催期間	申込受付	定員	開始/申込受付	操作
4	東北エリア無痛分娩カンファレンスA	カンファレンス	2020-09-01 ~ 2022-09-30	2020-05-01 ~ 2021-09-30	6,000	2020-12-05 20:48:01	申込済
5	東北エリア無痛分娩カンファレンスB	カンファレンス	2020-09-01 ~	2020-09-01 ~ 2021-12-31	10,000	2020-12-05 20:48:10	申込済
6	東北エリア無痛分娩カンファレンスC	カンファレンス	2020-11-01 ~ 2021-11-31	2019-09-01 ~ 2021-09-30	6,000	2020-12-05 20:36:10	申込済
7	東北エリア無痛分娩カンファレンスD	カンファレンス	2020-09-01 ~ 2021-09-31	2020-09-01 ~ 2020-12-31	12,000	2020-12-05 20:48:41	申込済

(イ) WEB 講習会作成システム:新たに WEB 講習会作成システムを開発した。このシステムではあらかじめ作成した動画及び確認テストを登録し、WEB 講習会として設定することが可能である。



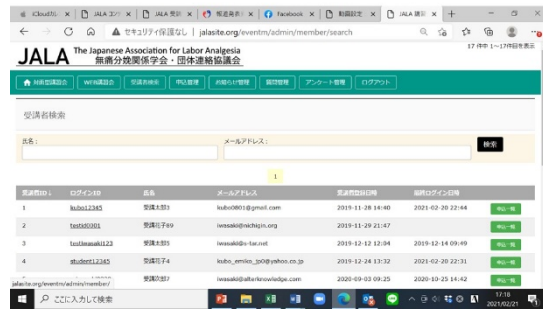
(ウ) 講習会設定画面:新たに WEB 講習会の設定画面を開発した。あらかじめ E ラーニングコンテンツ作成システムで作成した講習会の登録、講習会カテゴリー、受講有効期間、開催開始日、開催終了日、受講定員数、申込受付開始日、申込受付終了日、受付上限数、JALA



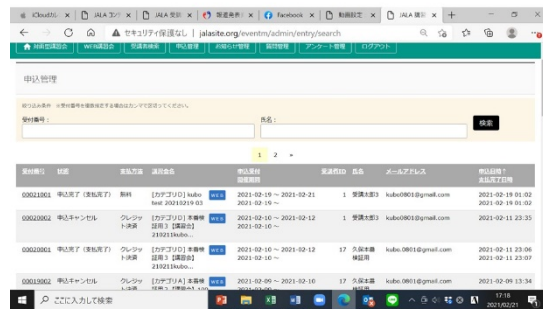
サイト URL、費用、講習会の概要を該当欄に入力することで設定されるようにした。

(エ) 受講生検索画面、講習会申込管理画面、お知らせ一覧画面、質問一覧画面、アンケート管理画面、受講生マイページ画面、受講生申込履歴画面、受講履歴画面、受講者情報画面、JALA 施設データ登録システムとの連携設定画面、については、昨年度開発したシステムを改良し、WEB 講習会に対応可能とした。

講習会管理システム 受講者検索画面



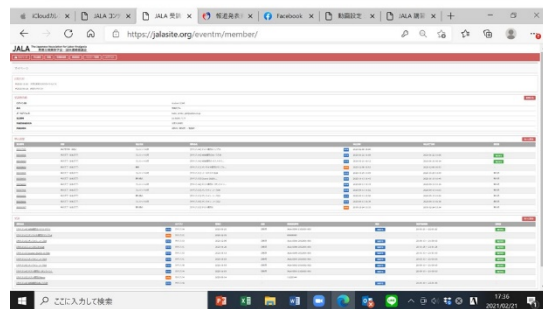
講習会管理システム 申込管理画面



講習会管理システム お知らせ一覧画面



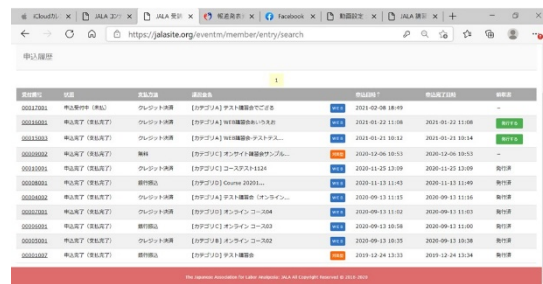
受講者 マイページ画面



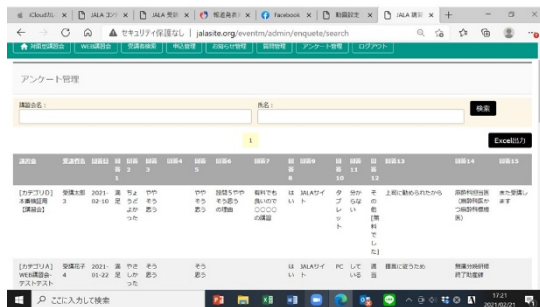
講習会管理システム 質問一覧画面



受講者 マイページ 申込履歴画面



講習会管理システム アンケート管理画面



受講者 マイページ 受講履歴画面

